

安全データシート



Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2021/06/04 改訂日: 2023/08/07 バージョン: 1.5

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Modesta EGC - Exterior glass coating
製品コード : 00879
製品グループ : 取引製品

会社情報

製造業者

株式会社モデスタ

761-8075

日本香川高松市東ハゼ町 20-3

www.modesta.co

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 2	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	分類できない
急性毒性 (吸入: 気体)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性	区分 2		
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (全身毒性, 中枢神経系)		

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (血液系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肝臓, 脾臓, 呼吸器系)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

- : 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)
- 強い眼刺激 (H319)
- 呼吸器への刺激のおそれ (H335)
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)
- 臓器の障害 (全身毒性、中枢神経系) (H370)
- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (血液系) (H372)
- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肝臓、脾臓、呼吸器系) (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策

- : 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
- 容器を密閉しておくこと。(P233)
- 容器を接地しアースをとること。(P240)
- 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
- 静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
- 蒸気、ミストを吸入しないこと。(P260)
- 取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
- 適切な保護手袋、保護眼鏡を着用すること。(P280)

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

応急措置	: 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312) 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314) 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313) 火災の場合：消火するために耐アルコール泡を使用すること。(P370+P378)
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
イソプロパノール	87.5	C3H8O	(2)-207	2-(8)-319	67-63-0
硫酸	0.5	H2O4S	(1)-430	既存化学物質	7664-93-9

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般	: ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	: 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合	: 呼吸器への刺激のおそれ。
症状/損傷 眼に入った場合	: 眼刺激。

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	: データなし
火災危険性	: 引火性の高い液体及び蒸気。
消火時の保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

非緊急対応者

応急処置	: 漏出エリアを換気する。 裸火、火花禁止、禁煙。 皮膚、眼との接触を避ける。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
------	--

緊急対応者

保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第8項の「ばく露制御/個人保護」を参照。
-----	--

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	: 環境への放出を避けること。
------------	-----------------

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法	: 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
その他の情報	: 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	: データなし
安全取扱注意事項	: 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 容器を接地すること／アースをとること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。 防爆型装置を使用する。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 皮膚、眼との接触を避ける。 個人用保護具を着用する。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

接触回避	: データなし
------	---------

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

衛生対策 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。

安全な容器包装材料

: データなし

技術的対策

: 容器を接地すること/アースをとること。

8. ばく露防止及び保護措置

イソプロパノール (67-63-0)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	イソプロピルアルコール # Isopropyl alcohol
許容濃度 上限	980 mg/m ³
許容濃度 上限 [ppm]	400 ppm
規則参照	許容濃度等の勧告 (2021 年度) 産衛誌 63 巻
日本 - ばく露限界値	
管理濃度	200ppm
許容濃度(産衛学会)	【最大許容濃度】 400ppm(980mg/m3)
許容濃度(ACGIH)	TWA 200 ppm,STEL 400 ppm
硫酸 (7664-93-9)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	硫酸 # Phosphoric acid
許容濃度 上限	1 mg/m ³
規則参照	許容濃度等の勧告 (2021 年度) 産衛誌 63 巻
日本 - ばく露限界値	
許容濃度(産衛学会)	【最大許容濃度】 1mg/m3
許容濃度(ACGIH)	TWA 0.2 mg/m3(T),STEL -

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 : [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

機器	フィルタタイプ	条件	規格		
使い捨て式空気浄化呼吸器(APR)		短期ばく露			
タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロプレンゴム (CR)	6 (> 480 分)	0,4-0,7		EN 374-2 EN ISO 374 EN ISO 374-1

眼の保護具 : 安全メガネ

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

タイプ	適用分野	特徴	規格
安全メガネ		サイドシールド付き	EN 166
タイプ	規格		
	EN ISO 6529 EN ISO 20345		

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	:
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: 非該当
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 引火性の高い液体及び蒸気。
化学的安定性	: データなし
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 高温面との接触を避ける。熱。炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 分類できない (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロパノール (67-63-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995))、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990))、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002))、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012))、5,500 mg/kg (EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995)、PATTY (6th, 2012)、環境省リスク初期評価第6巻 (2006) の情報を追加し、JIS 分類基準に従い、区分5から区分外に変更した。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990)、(PATTY (6th, 2012)、(SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。なお、文献の優先度変更により、今回の調査で入手した PATTY (6th, 2012) のデータを根拠データとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 (4時間) =68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995))、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990)、SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C)) の90%より低いいため、分類にはミストを含まないものとして ppmV を単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	5840 mg/l 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	4384 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	16400 mg/kg 出典：ECHA
硫酸 (7664-93-9)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値：2140mg/kg (SIDS, 2001)およびヒトでの経口摂取 (摂取量は不明) による死亡例の報告があるとの記述に基づき区分5とした。
急性毒性 (経皮)	データなし
急性毒性 (吸入:気体)	GHS 定義による液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラット LC50 値 (4時間暴露)：0.375mg/L および (1時間暴露)：347ppm (4時間換算値：0.347mg/L) (いずれも(SIDS, 2001)) に基づき、区分2とした。
LD50 経口 ラット	2140 mg/kg 体重 動物：ラット、95%CL：1540-2990
LD50 経口	2140 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	0.375 mg/l air 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 403 (急性吸入毒性)
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	0.347 mg/l/4h

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない

イソプロパノール (67-63-0)	
皮膚腐食性／刺激性	EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR66 (1995) のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990) のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。

硫酸 (7664-93-9)	
皮膚腐食性／刺激性	濃硫酸の pH は 1 以下であることから、GHS 分類基準に従い腐食性物質と判断され、区分 1 A - 1 C と分類した。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激

イソプロパノール (67-63-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	EHC (1990)、SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR48 (1998) のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。

硫酸 (7664-93-9)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ヒトでの事故例では前眼房の溶解を伴う眼の重篤な損傷が認められたとの記述 (ATSDR, 1998)、ウサギの眼に対して 5% 液中中等度、10% 液では強度の刺激性が認められたとの記述 (SIDS, 2001) および本物質の pH が 2 以下であることから区分 1 とした。

呼吸器感作性 : 分類できない

イソプロパノール (67-63-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

硫酸 (7664-93-9)	
呼吸器感作性	データなし

皮膚感作性 : 分類できない

イソプロパノール (67-63-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。

硫酸 (7664-93-9)	
皮膚感作性	硫酸の皮膚感作性に関する試験データはない。硫酸は何十年と工業的に利用されているが、皮膚刺激作用による皮膚障害がよく知られている一方、皮膚感作性の症例報告は皆無である。体内には硫酸イオンが大量に存在する (血清中の硫酸イオンは ~33mmol/L、細胞内にはその 50 倍) が、アレルギー反応は起こらない。金属の硫酸塩のアレルギー性試験では、金属によるアレルギー性陽性となることはあっても、硫酸イオンでは陰性となることは、硫酸亜鉛での陰性の結果から推定される。以上の結果から硫酸はヒトに対してアレルギー性を示さないとの結論が得られる、との記述 (SIDS, 1998) から、区分外とした。

生殖細胞変異原性 : 分類できない

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロパノール (67-63-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo では、体細胞変異原性試験であるマウスの骨髄細胞を用いる小核試験 (SIDS (2002))、ラットの骨髄細胞を用いる染色体異常試験 (EHC 103 (1990)) で陰性の結果が報告されている。in vitro では、染色体異常試験のデータはなく、細菌を用いる復帰突然変異試験 (SIDS (2002)、EHC 103 (1990))、哺乳類培養細胞を用いる hprt 遺伝子突然変異試験 (SIDS (2002)) で陰性である。なお、IARC 71 (1999)、環境省リスク評価第 6 巻 (2008) では変異原性なしと記載している。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
硫酸 (7664-93-9)	
生殖細胞変異原性	In vivo では生殖細胞、体細胞を用いたいずれの試験データもなく、In vitro 変異原性試験では単一指標 (染色体異常試験) の試験系でのみ陽性の結果がある (ATSDR, 1998) が、他の指標では陰性であることから、分類できないとした。
発がん性	: 分類できない
イソプロパノール (67-63-0)	
発がん性	IARC 71 (1999) でグループ 3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されていることから、分類できないとした。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
硫酸 (7664-93-9)	
発がん性	硫酸を含む無機強酸のミストへの職業的暴露については、IARC(1992)でグループ 1、ACGIH(2004)で A2、NTP(2005)で K に分類されていることから、IARC の評価および最近の NTP の評価を尊重し、区分 1 に分類されるが、硫酸そのものについては、DFGOT(vol.15, 2001)でカテゴリー 4 に分類している他、いずれの機関においても発がん性の分類をしていないことから、分類できないとした。
IARC グループ	ヒトに対して発がん性がある
生殖毒性	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
イソプロパノール (67-63-0)	
生殖毒性	ラットの経口投与による 2 世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある (IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990)) が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による 2 世代試験では親動物に一般毒性影響 (肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加) が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている (PATTY (6th, 2012))、SIDS (2002))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響 (体重低値、骨格変異) が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性 (不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少) がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている (PATTY (6th, 2012))。以上の結果、分類ガイダンスに従い区分 2 に分類した。

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

硫酸 (7664-93-9)	
生殖毒性	ウサギおよびマウスでの胎児器官形成期に吸入暴露した試験では、母獣に毒性が認められない用量では、両種ともに胎児毒性および催奇形性は認められず (SIDS, 2001)、また、慢性毒性試験および発がん性試験においても雌雄の生殖器官への影響は認められず、刺激性/腐食性による直接作用が主たる毒性であることから、生殖毒性を示す懸念はないと判断されている (SIDS, 2001) ことから、区分外とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害 (全身毒性, 中枢神経系)
呼吸器への刺激のおそれ

イソプロパノール (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制 (嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性 (吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性 (咳、咽頭痛) を示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005)) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分3 (気道刺激性) に分類した。なお、旧分類では区分1 (腎臓) を採用したが、根拠となるデータは List 3 の情報源からのヒトの症例報告によるもので、原著は古く、List 1 及び2の複数の情報源では採用されておらず、標的臓器としての腎臓は不適切と判断し削除した。

硫酸 (7664-93-9)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでの低濃度の吸入暴露では咳、息切れなどの気道刺激症状が認められており (DFGOT, 2001)、高濃度暴露では咳、息切れ、血痰排出などの急性影響のほか、肺の機能低下および繊維化、気腫などの永続的な影響が認められたとの記述 (ATSDR, 1998) およびモルモットでの8時間吸入暴露で肺の出血および機能障害が認められたとの記述 (ATSDR, 1998) から、区分1 (呼吸器系) とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (血液系)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肝臓, 脾臓, 呼吸器系)

イソプロパノール (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m ³ (ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m ³ (ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器 (肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990)) との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分2とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分2のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている (SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012)) 。

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

硫酸 (7664-93-9)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	S I D S (2001) のラットでの 28 日間吸入暴露試験では区分 1 のガイダンス値範囲で喉頭粘膜に細胞増殖が認められ、A T S D R(1998)のモルモットでの 14~139 日間反復吸入暴露試験では区分 1 のガイダンス値範囲内の濃度で鼻中隔浮腫、肺気腫、無気肺、細気管支の充血、浮腫、出血、血栓などの気道および肺の障害が、さらに、カニクイザルでの 7 8 週間吸入暴露試験では、肺の細気管支に細胞の過形成、壁の肥厚などの組織学的変化が、区分 1 のガイダンス値の範囲の用量 (0.048mg/L、23.5Hr/Day)で認められたことから、区分 1 (呼吸器系) とした。

誤えん有害性 : 分類できない

イソプロパノール (67-63-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できないことと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。

硫酸 (7664-93-9)	
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性) : 区分に該当しない
 水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない

イソプロパノール (67-63-0)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1997) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 86% (既存点検, 1993))、甲殻類 (オオミジンコ) の 21 日間 NOEC > 100 mg/L (環境庁生態影響試験 (1997)、環境省リスク評価 (2008)) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急性毒性が区分外であり、難水溶性ではない (In water, infinitely soluble at 25 °C、HSDB, 2013) ことから区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	9640 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
硫酸 (7664-93-9)	
水生環境有害性 短期 (急性)	魚類 (ブルーギル)96 時間 LC50 (pH3.25~3.5) =16~28 mg/L (OECD SIDS: 2001) であることから、区分 3 とした。

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

硫酸 (7664-93-9)	
水生環境有害性 長期 (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、魚類 (カダヤシ) の 45 日間 NOEC (成長) (pH6.0) = 0.025 mg/L (OECD SIDS: 2001) であることから、区分 1 となる。カダヤシは卵胎生のため、本来分類に結果を利用できないが、対象物質の成長への影響が大きく、他の魚種で同等以上の毒性が予測されることから使用した。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、甲殻類 (オシロイソデ) の 24 時間 LC50 = 29 mg/L (OECD SIDS: 2001) であることから、区分 3 となる。以上の結果から、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	16 mg/l
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
NOEC (慢性)	0.15 mg/l 試験生物 (種) : その他 : Tanytarsus dissimilis
NOEC 魚 慢性	0.31 mg/l 試験生物 (種) : Salvelinus fontinalis
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-2.2 出典 : HSDB

残留性・分解性

Modesta EGC - Exterior glass coating	
残留性・分解性	データなし
硫酸 (7664-93-9)	
急速分解性でない	

生体蓄積性

Modesta EGC - Exterior glass coating	
生体蓄積性	データなし
イソプロパノール (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
硫酸 (7664-93-9)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-2.2 出典 : HSDB

土壌中の移動性

Modesta EGC - Exterior glass coating	
土壌中の移動性	データなし
イソプロパノール (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
硫酸 (7664-93-9)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-2.2 出典 : HSDB

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。
追加情報 : 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG) : 1263
正式品名 (UN RTDG) : 塗料
容器等級(UN RTDG) : II
輸送危険物分類 (UN RTDG) : 3
危険物ラベル (UN RTDG) : 3



クラス (UN RTDG) : 3
少量危険物 (UN RTDG) : 5L
微量危険物 (UN RTDG) : E2
包装指令 (UN RTDG) : P001、IBC02
特別包装規定 (UN RTDG) : PP1
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/要件 : T4
(UN RTDG)
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/特別要件 (UN RTDG) : TP1、TP8、TP28

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質
非該当

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号 : 127
その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法 : 優先評価化学物質 (法第 2 条第 5 項)

安全データシート

Modesta EGC - Exterior glass coating

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

労働安全衛生法	: 第 2 種有機溶剤等（施行令別表第 6 の 2 ・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号） 作業環境評価基準（法第 6 5 条の 2 第 1 項） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号、第 2 号別表第 9） 危険物・引火性の物（施行令別表第 1 第 4 号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9） プロピルアルコール（政令番号：494）（80～90%） 腐食性液体（労働安全衛生規則第 3 2 6 条）
毒物及び劇物取締法	: 劇物（指定令第 2 条） 塩化水素と硫酸とを含有する製剤（5%未満）
水質汚濁防止法	: 指定物質（法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3）
消防法	: 第 4 類引火性液体、アルコール類（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1 ・第 4 類）
大気汚染防止法	: 特定物質（法第 1 7 条第 1 項、施行令第 1 0 条） 揮発性有機化合物（法第 2 条第 4 項）（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	: 有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1） 有害液体物質（Z 類物質）（施行令別表第 1）
外国為替及び外国貿易法	: 輸入貿易管理令第 4 条第 1 項第 2 号輸入承認品目「2 の 2 号承認」 輸出貿易管理令別表第 1 の 1 6 の項 輸出貿易管理令別表第 2（輸出の承認）
船舶安全法	: 引火性液体類（危規則第 2、3 条危険物告示別表第 1）
航空法	: 引火性液体（施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1）
港則法	: その他の危険物・引火性液体類（法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表）
道路法	: 車両の通行の制限（施行令第 1 9 条の 1 3、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第 1 2 号・別表第 2）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	: 特定有害廃棄物（法第 2 条第 1 項第 1 号イ、平成 3 0 年 6 月 1 8 日省令第 1 2 号）
労働基準法	: 疾病化学物質（法第 7 5 条第 2 項、施行規則第 3 5 条別表第 1 の 2 第 4 号 1）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしてはいるが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。